

決	議 長	局 長	主 事
裁			

受付

報 告 書

令和 年 月 日

湯前議会議長 金子 光喜 様

湯前町議会議員

議員派遣として出席した研修の内容は、次のとおりでありました。

期 間	令和8年8月28日（金）
場 所	LINE CUBE SHIBUYA（渋谷公会堂）
目 的	令和8年度全国町村議会広報研修会
報 告 の 内 容	1 演題： 「住民と議会をつなぐ広報デザイン術 ～王寺町議会広報紙のリニューアル そのねらいと効果～」 講師： 自治体・議会広報アドバイザー 村田 大地 氏 2 演題： 「議会広報紙のビフォーアフター 紙面を見直す、効果的なテクニック」 講師： エディラボ インタビューライター 丘村 奈央子 氏 3 演題： 「山形県川西町議会における議会広報の取り組み ～「読まれる」議会だよりを目指して～」 講師： 山形県川西町議会公聴広報常任委員会 委員長 橋本 金一 氏 ～所 感～ 今回の研修を通じ、議会広報は単に議会活動を「知らせる」ものではなく、住民が議会に関心を持ち、理解し、行動につながるきっかけをつくる重要な役割があることを再認識した。 特に印象に残ったのは、「何を掲載するか」だけでなく、「誰に、何を、どのように伝えるか」を明確にすることの重要性である。文字を詰め込むのではなく、見出し、写真、図表、余白、色などを効果的に使い、短時間でも内容が理解できる紙面づくりが求められている。本町の議会だよりにおいても、こうした取り組みは一定程度実践できて

いる。

また、一度完成した広報紙をそのまま踏襲するのではなく、過去号を検証し、住民アンケートやモニター、全国の優良事例などを参考にしながら、継続的に改善していく姿勢が重要であると感じた。

今回の研修内容を参考に、本町議会のこれまでの取り組みを生かしながら、「発行する広報」から「住民に読まれ、議会への関心につながる広報」へ、継続的な改善を進める必要がある。

～研修の成果～

今回の研修を踏まえ、本町の議会だよりにおいて今後取り組むべき課題を以下に示す。

①議会広報の編集方針・ルールの明確化

「誰に、何を伝えるのか」を整理し、見出し、文字量、写真、図表、色、用語などの基本的な編集ルールを改めて共有する。また、現在の編集要領についても検証と見直しを行う。

②過去号などを活用した紙面の継続的な見直し

毎号ゼロから考えるのではなく、過去号について「読みやすかった点」「改善すべき点」を検証し、全国の優良事例も参考にしながら改善を積み重ねる。

③住民の意見を把握する仕組みづくり

議会だよりに関するアンケートなどを実施し、「読まれているか」「分かりやすいか」「どのような情報を求めているか」を把握し、編集に反映する。

④紙面とデジタル媒体の連携強化

YouTube 動画、SNS、ホームページ等の閲覧数・視聴数や誘導方法を検証し、紙面からデジタル媒体への誘導効果を高めるとともに、それぞれの媒体の相乗効果を図る。

⑤第三者評価の活用

広報モニターや専門家の助言などを活用し、第三者の視点から客観的に紙面を評価し、継続的な改善につなげる。